



佐盲PTA会報

—Pica pica—

佐盲PTA会報 研修だより

<発行>佐賀県立盲学校PTA

<発行日>令和5年11月20日

秋冷の候、会員の皆様には、ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、第3回PTA研修を11月9日に実施しました。NPO法人福岡市視覚障害者サポートセンター就労継続支援事業所アムス(福岡市南区玉川町13-28 鶴田ビル2F)へ施設見学です。視覚障害に特化した事業所ということで、大変有意義な研修となりました。今回参加できなかった皆さんにも、お知らせし、情報共有したいと思います。

アムスは、サポートセンター内に、令和元年11月1日に開設された、就労継続支援B型事業所です。視覚障害者のあはきの現状に対する憂慮や、免許があっても自立できない人がいる現状を何とかしたいという思いから立ち上げられたそうです。

主な事業としては、

- ①はり灸あん摩マッサージ指圧師の知識面、技術面のブラッシュアップとアムスでの施術業務
- ②パソコン操作、実用的な施術録記入やデータ管理、スマホ操作支援
- ③点字印刷、封入
- ④さをり織り生地製作、作品製作
- ⑤施設外での就労支援(福祉施設、病院等への施術業務者の派遣)
- ⑥「アマ指師」国家資格取得のための支援

事業所の概要は、「定員20名、利用者登録31名で、あはきの免許所有者の割合は、5割程度。利用時間は、10時～15時、基本工賃は、1時間200円ほどで、訪問マッサージなどで施術をする人には、工賃規定に基づき上乗せして工賃を出している。通所は、送迎バスの利用者は10名で、残りは自力通所で、徒歩、電車などで来所している。生活形態は、家族と一緒に生活する人、一人暮らしの人、グループホーム利用など様々。身辺自立ができていない人は、現在の利用者にはいない。皆が毎日来所するのではなく、週1回の人、2～3回の人等様々。」とのことでした。

最後に、学生時代、どのような力を付けておけばよいかとの質問には、「コミュニケーションが大事。患者さんとのおしゃべりが必要。なかなか学校では教えられないが、興味関心を広げておく。また、生活力、行動力、たくましさが必要。電子レンジくらい使えてほしいと感じたこともある。」とのことでした。



施設長緒方様から概要を聴く。



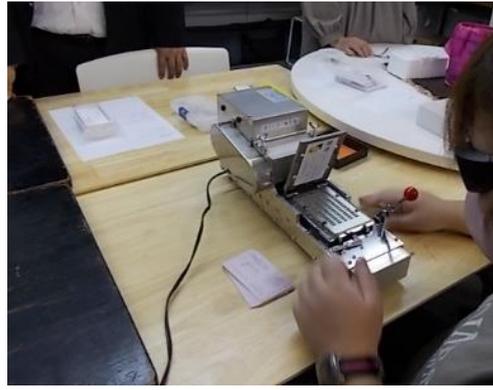
施術室には、ベッド3台。



さをり織りの製品販売



織機でのさをり織り生地作製



点字名刺印刷

(文責 角)

参加者所感

あはきは持っているけれど、一般就労は難しい人、あはきは持っていないけど、視覚障害を理解してくれる環境で社会に役立つ仕事をしたい人の両方を、持続可能な形で両立できる場があることを具体的に知れてとてもよかったです。(世戸)

視覚障害者を対象とした就労継続支援事業所は、全国的に少ないと聞いていましたので、今回の研修は、そうした事業所を知るよい機会となりました。あはきを中心に、点字印刷、さをり織りなどの作業をされていました。患者さんの確保や、販路の開拓などご苦労されていると伺いましたが、利用希望者は増えているとのこと、保護者として、また、視覚障害を有する当事者として、このような事業所が今後増えてくれればよいと願うばかりです。(空地)

盲学校の卒業後を考えると、個々のニーズに応じた就労先や利用場所が必要です。今回研修させていただいた事業所の概要を聞き、佐賀県にはない事業内容で驚きの連続でした。視覚障害者の自立と社会参加という面から進路指導部として更に視覚障害の理解啓発、進路開拓を充実させていかなければならないと痛感しました。(嘉村)

佐盲PTA会報「Pica pica」について

平成30年度まで、本校PTAの会報として、「Pica pica」の名称を使っていました。

この名称は盲学校に因んだものとし、校章に佐賀県鳥であるカササギが飛んでいる所があるところから、「カササギの学名」を取り入れました。「光(ピカピカ輝く人生を送って欲しい)」の意味もこめてPica pica(ピカピカ)を会報の名称として発行していました。今回、久しぶりに復活させました。